

徳島県阿波市（国内 29 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 19 日実施）

令和 2 年 12 月 19 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山間部から平地に移る緩やかな斜面に位置し、付近は雑木林と畑、水田に囲まれている。
- ② 農場敷地の周囲に複数のため池があり、発生鶏舎から約 30m、約 60m、約 80m の距離にある池にはそれぞれ 4 羽、2 羽、5 羽のカルガモが確認された。また、約 150m の距離にあるため池にはカルガモ 10 羽、マガモ 23 羽が確認された。
- ③ 当該農場には開放鶏舎が 6 棟あり、発生時はそのうち 3 棟において、採卵鶏がケージ飼いされていた。空舎である 1 つの鶏舎は貯卵設備及び死亡鶏の一時保管庫等として利用されていた。発生鶏舎は農場の中央部に位置していた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、農場全体における 1 日あたりの死亡鶏は、通常 5~10 羽で推移していたところ、12 月 17 日に 19 羽、12 月 18 日に 69 羽の死亡鶏が確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。なお、発生鶏舎における死亡羽数は通常 2~3 羽で、12 月 18 日は 40 羽であったとのこと。
- ② 管理人によると、通報時の死亡鶏は、発生鶏舎の右側通路奥の中央側ケージに多く認められ、連続する 20~30 ケージの中で散在していた。その範囲内には死亡鶏、活力の低下した鶏と異常の認められない鶏が混在していたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 管理人によると、当該農場にはオーナー 1 名と 3 名の従業員がおり、オーナーは週に 1 回、農場の様子を確認するため立ち寄るが、鶏舎内には入らなかったとのこと。従業員のうち 1 名は管理者であり、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに死亡鶏を回収し、各鶏舎の死亡鶏をビニール袋に入れて空き鶏舎へ運んで一時保管していたとのこと。
- ② 従業員のうち 1 名は集卵担当であり、毎日、鶏舎内において手作業で集卵し、荷車で空き鶏舎へ鶏卵を運搬していた。もう 1 名の従業員は空き鶏舎からの鶏卵と死亡鶏の搬出を担当しており、搬出は週に 3 回実施していた。
- ③ オーナー及び従業員は全員、他農場へ立ち入ることはない。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の長靴と手袋を使用し、各鶏舎に入る際、踏み込み消毒を実施していたが、長靴の交換、手袋の交換及び手指消毒はしていなかったとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、水道水を農場内の貯水タンクに貯蔵し、各鶏舎に供給していた。
- ④ 鶏糞は農場内で乾燥処理していた。鶏糞処理施設には防鳥ネットが設置されていたが、ネットがない箇所が複数認められた。
- ⑤ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後には鶏舎内の洗浄・消毒を実施しているとのこと。
- ⑥ 管理人によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、週に 3 回、系列会社敷地内にある保管庫に搬出しており、業者が週に 3 回処理していたとのこと。

- ⑦ 管理人によると、香川県での初発事例以降、鶏舎周囲に消石灰を散布し、消毒を定期的に行っていたとのこと。
- ⑧ 管理人によると、車両が農場敷地内に入る際、車両消毒を実施していなかったとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎の側面はロールカーテンとネットで覆われていた。ネットは一部網目が大きく（マス目は約5×4cm）、破損も認められた他、ネットが捲れ、小型の野鳥や哺乳類が容易に侵入できると考えられる箇所も認められた。
- ② 管理人によると、スズメはまれに鶏舎内でみかけるとのこと。また、農場内では、カラスを多くみかけるとのこと。
- ③ 管理人によると、ネズミはまれに鶏舎内で見かけており、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。調査時にも、発生鶏舎内においてネズミが確認された。